

保健体育科 1年

体育分野「ゴール型」～バスケットボールの技能評価～

担当 羽田野 直樹

【活動の目標】

これまで学んだシュート技能を生かして、シュートテストに臨もう。

自分がボールを保持した場所に応じて、ジャンプシュートやセットシュート、レイアップシュートを使い分けることができる。

【 問 い 】

- ・自分が得意とするシュートはどのようなシュートだろうか。
- ・ボールを持った位置に応じて、素早く正確にシュート打つ場合に、どのシュートをすれば良いか、選択しよう。

今回 ICT を活用した場面	従来 of 活動
A1 前時までの授業の中で、ジャンプシュート、セットシュート、レイアップシュートを用いて、シュートゲームを行った際の良い例を提示する。	その場で、うまい生徒や教員が良い例を示す。教員ができなかったり、クラスにうまい生徒がいなかったりする場合は例示できない。
B2 自分の動きを撮影し、見返す。良い点や改善点を分析する。	他の生徒が見た情報を聞き、自分の動きをイメージする。他の生徒に改善点を提示してもらう。
B2 動きを記録し、評価を行う。	教員の評価を行う際に、記録できない場合は、何度も動きを見る中での評価になるので、時間がかかる。

【資料】



【ICT 機器を活用する良さ】

- 生徒が見本を見る際も、班に1台ずつでも機器があれば、見やすいし見返すこともできる。
- 自分の動きを見返す場合も、何度も見る中で動きの分析ができるし、他人に動きについて聞くよりもよりイメージしやすく、改善点にも気づきやすい。

【改善すべき点と原因および改善案】

- ・撮影者を班に置くことによって、短い時間での運動量がどうしても減ってしまうので、毎時間何度も使うというのは効率が悪い。必要な時間を抜き出して活用していくことが重要。